

大学入学共通テストの 試行調査について

元大阪府立岸和田高等学校指導教諭 南 英世



① 「共通テスト」について

2021年1月より「大学入学共通テスト」が始まる。共通テストに移行する理由は、これまでのセンター試験では知識の有無を問う出題が中心であったのに対し、現代においては正解が1つとは限らない場面も多く、このような複雑な問題に「自ら考え、判断」できる教育が求められるようになったからである。

こうした観点から、共通テストは「思考力・判断力・表現力」をより重視した問題を出題し、さらに2022年度から始まる新学習指導要領が求める「主体的・対話的で深い学び」へとつなぐねらいがあるとみられる。

共通テスト実施に先立ち、2018年11月に試行調査(プレテスト)が行われ、全国で約8万人の高校生が参加した。今回のプレテストを参考に「政治・経済」共通テストの傾向と対策を探ってみた。

② 「共通テスト」プレテストの出題傾向

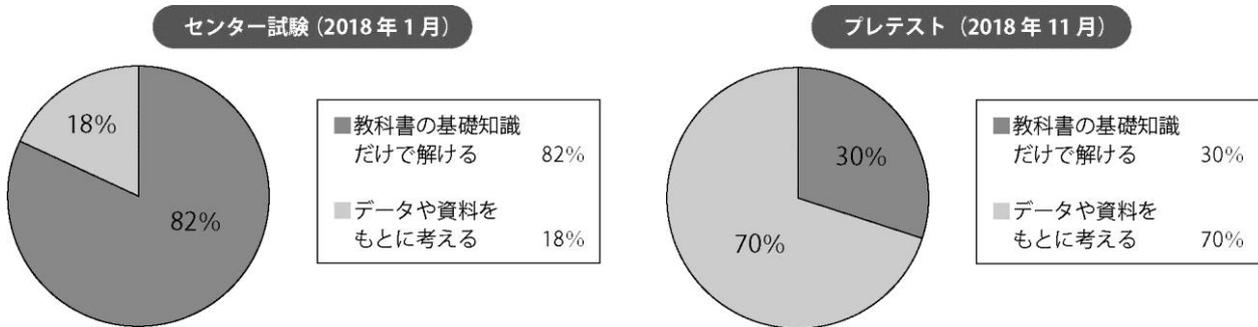
■ 大問数と設問数

大問数および設問数(解答数)をセンター試験と比較してみると以下のとおりである。大問数、設問数ともにセンター試験に比べて大きな変化はない。また問題文の分量にも目立った違いはない。

	大問数	設問数
センター試験 2018年1月実施	4問	34
プレテスト 2018年11月実施	4問	30

■ 思考力・判断力を問う設問の増加

出題内容は大きく、①「教科書の基礎知識だけで解ける問題」と、②「データや資料を読んでその場で考えて解答する問題」の、2つのタイプに分類できる。もちろん、両方の要素を含むものもあり、明確に2種類に分類することは難しいが、あえて分類した結果は以下の通りである。



ご覧の通り、教科書の基礎知識だけで解ける問題はセンター試験に比べて大幅に減少し、データや資料をもとに思考・判断させる問題が3.5倍に増えている。

なお、プレテストのデータは大学入試センター作成の「問題のねらい、主に問いたい資質・能力及び小問の概要等」の「主に問いたい資質・能力」を参考にした。

■ 出題形式

従来の単純な択一式(4つの選択肢から正しいものや誤っているものを選ばせる問題)と、「A・I・U」や「A・B・C」の語句や内容の組み合わせを選ばせる問題の数を比較すると、次のようになっている。

	単純な 択一式	組み合わせを選択
センター試験 2018年1月実施	23問	11問
共通テスト 2018年11月実施	11問	19問

従来の単純な択一式問題が減少し、組み合わせを選ばせる問題が増加している。このことはデータや資料をもとに考えさせる問題の増加とあわせて、受験生の平均点を引き下げられると思われる。したがって、共通テストはセンター試験に比べて難化することも予想される。

③ 「共通テスト」プレテスト・大問ごとの分析

■ 2018年プレテスト

大問	出題のねらいと問われている学力
第1問	民主政治の基本原理や現代の政治の動向に関する問題。大問としてのリード文がなく、問いA・Bごとに異なるテーマを出題。ルソーの思想、少数意見の尊重、国会の議決方法、形式的平等と実質的平等、グラフの読み取り、行政の統制方法など、教科書の基礎的知識とその応用力が問われた。解答番号5は、ユーロ導入国・核保有国・連邦制をとる国家を知らないと解けない。解答番号6は、地方公共団体の税制とグラフのデータを対応させる出題で、難しいと感じた人が多いかもしれない。解答番号7は、出題意図が時事問題であることに気がつけば解答は容易。解答番号8は、行政の統制方法を考えさせる新傾向の出題といえる。
第2問	提示された年表から、さまざまな出来事の内容を問う。いずれも教科書の基本的な内容を理解していれば十分対応できる。解答番号15の排出権取引の問題は一見難しそうに見えるが、排出権取引のしくみとA社およびB社の削減コストに注目すれば解答は容易。なお、排出枠の取引において、買う側はコストになるが、売る側は利益になる。そのため、社会全体としてのコストはゼロとなる。
第3問	経済分野に関する生徒の課題追究学習を想定した出題。日本経済の動向、需要の価格弾力性、GDPをはじめとした国の経済活動を測る指標、ジニ係数と累進課税制度、労働問題などを問う。思考力・判断力を求める出題ではあるが、いずれも教科書の基本的な内容を理解していれば十分対応できる。解答番号23の生産年齢人口に関わるグラフの読み取りは、文章を落ち着いて読み、それにふさわしいグラフはどれかを考えれば、それほど難しくはない。
第4問	国際経済に関する問題で、BIS規制、SDR、国際資本移動と固定相場制、為替相場、国際収支表、EU、ODAなどについての出題。いずれも教科書の基礎的理解があれば十分対応可能である。ただし、正しい内容をすべて選ばせたり、語句や内容を組み合わせたりする出題形式であり、確実な知識と思考力・判断力が求められる。とくに解答番号30は、最初の設問(空欄X)の答えを特定できず、その後示される空欄Yに関する資料と総合して正解を導くという新傾向の問題である。

④ 考えられる「共通テスト」対策

本来の授業は、テスト形式が変わったからといってそれに左右されるものではない。しかし、その一方で新しい時代の要請に応じて授業を工夫・改善していかなければならないことは言うまでもない。今回のプレテストを通じて、これからの授業にどのような工夫・改善が求められているかを考えてみたい。

■ 基本は教科書

国公立大学が1期校と2期校に分かれていたころ、入試問題は各大学が独自で作成していた。しかし、難問・奇問が続出したことなどから、1979年に共通一次試験、さらに1990年からはセンター試験が導入されるようになった。これにより大学入試問題は難問・奇問を排し、学習指導要領に則した基礎的知識を中心に出题されるようになった。また、そのおかげで、高校での授業は基本的知識の習得に多くの

時間を割くことができるようになった。

プレテストを見る限り、共通テストが導入されても、この基礎学習を重視するというこれまでの基本方針は変わらないと思われる。したがって、授業も教科書を中心に基礎的知識を深めるという従来の授業方針でよいと考えられる。

■ 因果関係で論理的に考える

今回のプレテストの大きな特徴は、データや資料を活用して、思考力・判断力を問う問題が多く出題されている点である。単に教科書のゴシックを丸暗記しただけでは対応できない工夫が随所に見られた。今までの授業が、教えられたことを効率よく覚えることが中心であったとすれば、これからの授業で必要なことは、データや資料を活用して物事を因果関係としてとらえ、論理的に考えることであるといえる。授業の中でもそうした場面を多く設定することが求められる。

■ 主体的に取り組む

今までの教え込む教育に対して、これからの時代に求められるのは、主体的に課題に取り組む姿勢を重視した授業である。答えをすぐに与えるのではなく、生徒に考えさせて「待つ」ことを重視することも大切である。その意味では、「探究学習」や小論文の作成・レポートの作成など、生徒が主体的に取り組む学習場面を多くすることが求められているといえる。

また、資料を収集する際、安易にインターネットの情報に頼るのではなく、自ら書籍を読み、知っている人に質問し、現地に足を運ぶなど、情報収集の仕方についてもしっかりとスキルを身につけておくことも大切である。

■ 時事問題や日常生活の中での応用力を身につける

知識は現実に応用できて初めて生きる。学習指導要領が「平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力」の育成を掲げるのも、このような観点からである。いうまでもなく、高校教育は18歳における偏差値を高め、大学入試を突破することが主たる目的ではない。日ごろから時事問題に関心を持ち、教科書に書かれた基礎理論を現実にもどのように生かすべきかを常に考える習慣を身につけたい。共通テストが求める高校生像とはそのようなものではないだろうか。

⑤ 「大学入学共通テスト」に関する今後の予定

2019年（3月まで）	・試行調査(プレテスト)の分析結果の公表
2019年（4月以降）	・実施大綱の策定・公表 ・出題教科・科目の策定・公表
2020年（4月以降）	・実施要項の策定・公表(時間割, 出願期間)
2021年（1月）	・「大学入学共通テスト」の実施

(平成30年12月7日)

本分析資料のほか、他教科・他科目の分析資料(PDF)もダウンロードできます。



第一学習社

広島本社

733-8521 広島市西区横川新町 7-14

TEL 082-234-6800